

明治時代の漢文教育がどのような変遷をたどったのか――。  
漢文学研究、教育史研究のみならず、ひろく明治期を  
分析できる希少資料を編集復刻！

二松学舎大学教授

加藤国安 編・解説

石川忠久・鈴木貞美・辻本雅史 推薦

# 明治漢文教科書集成

〔編集復刻版〕  
不二出版



全Ⅲ期完結！

全7巻・別冊2〔全Ⅲ期〕

体裁ⅡA4判(4面付)・上製・総3、254頁

揃定価Ⅱ本体194、000円＋税

刊行Ⅱ2013年11月～2015年9月

第Ⅲ期 多様な漢文教科書編

第6巻・第7巻・別冊1

体裁ⅡA4判(4面付)・上製・総986頁

別冊Ⅱ第Ⅲ期解説・総索引

揃定価Ⅱ本体56、000円＋税

刊行Ⅱ2015年9月

## 復刻の辞

日本では古来より大陸と海で隔てられながらも、先人たちの努力により、ほどよい距離感を保ちつつ大陸の文化を吸収消化し、自分たちのものにしていった。日本文化史を通覧するとき、東アジア漢文化を抜きにしては、古今和歌集から源氏物語、枕草子、五山文学、江戸の学問、そして松尾芭蕉、与謝蕪村等、連綿と受け継がれてきた歴史が形骸化してしまうといっても過言ではないだろう。

しかし、江戸から明治へと時代が大きく移り変わるなかで、東洋文化は西洋文化と大きくせめぎ合うこととなった。これは漢文と、その教育に関しても例外ではなかった。洋学全盛の気運の中、これまで培ってきた漢文化をどのように継承、活用していくべきか、知恵や明察が求められた。

それでは、明治時代における漢文教育がはたしてどのような変遷をたどったのか。本集成は明治期に刊行された漢文教科書を年代で三期に分けた。儒教主義の復古から教科書検定が始まるまでの期間を第Ⅰ期「初学漢文教科書編」（収録資料 明治一〇～二〇年刊）、日本の漢文教育史上もっとも内容的に充実した国民教育が実施された、教科書検定下の第Ⅱ期「中等漢文教科書編」（同明治二四～三四）、国語調査委員会発足後の第Ⅲ期「多様な漢文教科書編」（同明治三二～四四）と位置付け復刻する。

本集成が近代日本教育史における漢文の苦闘と変遷を実見することのできる貴重資料であることは自明であるが、国内外から幅広く収集された作品群は東アジア漢文傑作選としても価値のあるものである。

漢文学研究、教育史研究のみならず、ひろく明治期を分析する資料として活用されたい。

（不二出版）

## 推薦します

### 時宜を得た壮拳

石川 忠久

（日本中国学会顧問・全国漢文教育学会会長・二松学舎大学名誉教授）

このたび不二出版より、『明治漢文教科書集成』が刊行される運びとなった。名古屋大学加藤国安教授の解題による労作とのこと。まことに時宜を得たものと喜びに堪えない。

思うに、日本文化の「土台」を築いた漢文、学校教育では「英数国漢」と称され四大教科の一を占めた漢文科が、なぜ現状のような姿になったのであろうか。

私のように、戦中戦後の激変を体験し、その後の推移を目の当りに見て来た者にとって、現状を前に、まことに感慨無きを得ないのである。それは外圧もあった。要路の無定見もあった。迎合もあった。マス教育よりの必要性もあったことだ。

しかし、改めて振り返って考えた時、漢文・漢文科自身に内在する種々の問題に思い至る。これを追究すること無しに、「展望」は開けない。そのためには、どうしても事の始まりの「明治の初め」に目を注がねばならないのである。

折しも昨秋、十一月一日を、新たに「古典の日」とすることが、国会の議決によって定められた。『源氏物語』千年、が契機となったようだが、千年経って何か大きな胎動が始まったのか。今や、後向きに感慨に耽っている暇はない。

この企画は、第Ⅰ期「初学漢文教科書編」に引き続き、第Ⅱ期「中等漢文教科書編」、第Ⅲ期「多様な漢文教科書編」と、続々刊行される予定とのこと。漢文教育に携わる人はもとより、広くこれからの漢文に関心を抱く人士の書架に、必ず備えるべきものとなるろう。

編者の加藤国安君は、中国の古典のみならず、日本漢文学の分野にも広く目を配り、数々の研究成果を世に問うてきた。現代随一の気鋭の学者である。この度の加藤君の壮拳に心からの拍手を贈りたい。

## 『明治漢文教科書集成』に期待する

鈴木 貞美 (国際日本文化研究センター名誉教授)

名古屋大学の加藤国安教授の御尽力により、明治期漢文教科書の変遷が見渡せるようになる。日本の文学研究者にとっても、実にありがたい。

わたしが「文学」を中心に、学芸の基礎概念の構成とアカデミズムとジャーナリズムの制度の近代化過程の解明に取り組みはじめて二〇年以上になる。徳川幕藩体制下に培われてきたものが西洋的なものにとって代わったわけではない。最初は洋学派、漢学派、皇学派の三つ巴、次第に欧化主義と伝統主義とのせめぎあいに移り、研究教育制度全般が各省庁から文部省に移管し、二〇世紀に入るあたりで、日本独自の編制が一応まとまるが、それもまた組み替えられてゆく。どうやらそういう見渡らしい。

だが、欧化主義にも伝統主義にもいろいろあり、個人の立場も変化する。実に錯雑とした様相を呈する。といっても、ヨーロッパ概念の導入は、まず中国南部で朱子学の体系で受けとめられ、翻訳された漢語がベースになった。清朝中国とのちがいは、神道、仏教系が併存し、知識層が士族だったことにとどまらない。陽明学派も、「陽明学左派」も、古文辞学派も並び立っていた。それゆえ、さまざまな西洋思想をそれなりに咀嚼できたのだと思う。さらに明治一〇年代に、若い知識層に和漢の古典ブームが興った。その後、国民文化の形成期に、漢文教科書の低学年用には日本人の記した漢文の採用が多くなると聞く。日本の漢学は、朱子、王陽明の両学ともに体系性を解かれ、語学教育への傾斜を強めるとともに、皇室への「忠」を柱にした日本的儒学へと再編されてゆくのではないか。『明治漢文教科書集成』は、明治期を通して、まだ知られざるところの多い漢学の変容過程を明らかにしてくれにちがいない。

## 不二出版『明治漢文教科書集成』の刊行を喜ぶ

辻本 雅史 (国立台湾大学教授、京都大学名誉教授)

古来わが先人たちの知の資源は大陸からの漢籍であった。読めない漢籍をいかに読むか、この苦闘にみちた知の営みは近代まで基本的に変わらなかった。漢文は日本における「知的言語」として機能した。やがて日本語を表記する仮名が生まれ漢文を日本語文法で読み下す訓読法も開発された。

近世には「素読」という漢文学習法が採られた。子ども期、古典漢文(経書)を声に出して繰り返し訓読し、暗誦に至る。漢籍を丸ごと身体に埋め込む意味で、私は素読を「テキストの身体化」とよぶ。経書は聖人の言語。身体化された言語は自己の言語と化して自在に活用できる。知識人は、聖人の漢文言語で思考し高度な知的活動をなした。漢文は思考の型を構成し、自己表現も漢詩漢文でなされた。

欧米近代の学知の受容も事情は変わらない。洋学の担い手は漢文知識人であった。洋書の多くは漢訳で受容され、朱子学は洋学受容の主体の思想であった。中江兆民によるルソー「社会契約論」の翻訳も漢文でなされた。近代学知の翻訳語はすべて漢語で、その多くが漢字圏で今に定着している。思えば漢文はわが先人たちの学問・思想・文学の基礎言語であった。仮名文学や国学も漢文知への対抗運動であったと思えば、漢文は日本の知の歴史のうちに刻み込まれ血肉化している。

古来、漢文習得用テキストは編まれ続けてきた。ただ近世まではせいぜい村落指導者層止まりで、大衆にまで広がることはなかった。明治近代は教育を大衆に開放し、漢文科が学校の教科となり、漢文学習が初めて大衆化した。漢文は旧時代の遺物などではなく、近代が始動する母体となった教養知である。教科書は時代が求める知を映し出す。それゆえその変遷は時代の知の葛藤空間でもある。

今回、主要な明治漢文教科書の原文が、加藤国安教授の懇切な解説付きで刊行される。近代始動期の知の静かなる闘争空間の現場が身近にやってくる。私はそうした期待をもって、今回の企画を喜びたい。

# 『明治漢文教科書集成』収録資料一覽

## ◆「第Ⅰ期 初学漢文教科書編」

第2卷		第1卷					復刻版 数								
⑪ 初学文章軌範	⑩ 高等小学漢文軌範	⑨ 小学漢文讀本	⑧ 小学漢文讀本 中等科	⑦ 小学中等科讀本	⑥ 初学文編	⑤ 小学新編	④ 鼈頭評点 上等小学漢文軌範	③ 小学中等讀本 漢文	② 初学文編	① 小学文範	書名	編者	卷(冊) 数	本	発行
三島中洲	太田武和	稲垣千穎	阿部弘藏	笠間益三	鈴木重義	岡本監輔	小川伊典	木沢成爾	竹内 貞	亀谷省軒					
明治20年	明治20年	明治17年	明治16年	明治16年	明治15～16年	明治15年	明治14年	明治14・17年	明治12年	明治10年					

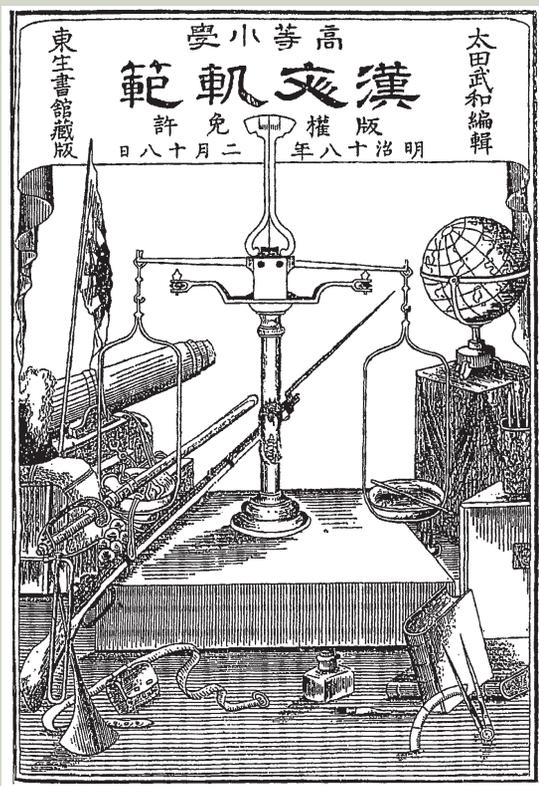
## ◆「第Ⅱ期 中等漢文教科書編」

第3卷			
④ 中学漢文讀本	③ 中等教育漢文軌範	② 標註漢文教科書	① 新撰漢文讀本
秋山四郎	石川鴻斎	堀捨二郎 深井鑑一郎	中根 淑
10	3	4	2
明治27～29年	明治26年	明治24～25年	明治24年

## ◆「第Ⅲ期 多様な漢文教科書編」

第5卷		第4卷	
⑧ 中等漢文讀本	⑦ 第一訂正中学漢文讀本	⑥ 撰定中学漢文	⑤ 中等教科漢文讀本
国語漢文研究会	秋山四郎	深井鑑一郎	宮本正貫
10	10	10	10
明治34年	明治34年	明治30～31年	明治30～31年

第7卷		第6卷				
⑦ 新編漢文讀本	⑥ 中学漢文讀本	⑤ 新編漢文教科書	④ 漢文教科書	③ 新撰女子漢文讀本	② 高等女子漢文讀本	① 初等漢文讀本
簡野道明	市村瓊次郎	国語漢文研究会	秋山四郎	南摩綱紀	簡野道明	簡野道明
5	5	5	5	3	4	4
明治44年	明治42年	明治38年	明治34～35年	明治35年	明治33～36年	明治32年



I - ⑩ 高等小学漢文軌範

新編漢文讀本卷五目次

勅諭陸海軍人	刪修	重野安釋	一
日本刀歌		歐陽修	四
廣輿圖記		尾藤孝肇	五
和氣清麻呂論		賴襄	七
汲黯簡靖	資治通鑑		一〇
慧窩記		方孝孺	二二
錦山神祠改建記		安井衡	一五
清正讀論語(練習)		大槻清崇	一九
論語抄			二〇
顏孟之事我亦可學	小學		二二
柳氏家訓	小學		二三

目次

一

III-⑦新編漢文讀本

小學漢文讀本緒言

一此書慶長元和以降ノ儒家ノ漢文ノ中ニ就キ  
 テ極メテ卑近ニシテ且短簡ナル者ヲ撰録シテ  
 以テ小學兒童初メテ漢文ヲ讀ム者ニ便ス  
 一本邦儒家ノ漢文ハ所謂全ク和臭ヲ脱セザル  
 者往々之有リ或ハ僅ニ之ヲ免ル、モ亦他ニ難  
 有リテ到底形ヲ摸シ影ヲ寫スニ過ギズ然レモ  
 尋常普通ノ學ニシテ漢文ト稱スル者ハ假字ヲ  
 使用セザル文ノ名目ニシテ適用ヲ主トスルニ  
 過ギザル者ナレバ必四子六經左國史漢ヲシモ

小學漢文讀本

緒言

一、木、九、成、尺

I-⑨小学漢文讀本

例言

一此編為初學讀本故初擇短編易解者漸進至長文雅馴  
 者且雜然列諸體而不別部類錯綜古今而不論次序蓋  
 倣小學讀本之體也  
 一所輯錄和漢文章專於近世作者擇之旁及古書之易解  
 者  
 一學漢文不如讀漢人之文然文理深奧初學不易解故此  
 編多揭邦人之文  
 一余編此書請閱於平井正君君贊成余舉改刪補正將伯

刀學人編

乙、司、一

七、風、土、或、成

中等漢文讀本卷九

八十二

太平洋艦隊中戰艦四號水雷艇若干號是年籌添海軍經費  
 一千八百萬盧布陸軍經費四千八百萬盧布本年正月詔令  
 新製容積一萬二千噸之鐵甲船三號容積六千噸之巡洋艦  
 七號竝聞去年陸軍添募四萬二千名又防禦阿甫汗邊疆之  
 陸軍添募二萬名

書信一遺

李鴻章

敬復

東邦協會會頭○○○○○開  
 臺灣持節中華邦交鞏固  
 臺灣遺遠林下鄙人依然  
 使之事滿擬和局早成

國語漢文研究會編

貳版

中等漢文讀本

東京 明治書院

II-⑧中等漢文讀本

I-⑥初學文編

編集復刻版

# 明治漢文教科書集成 概要

全7巻・別冊2〔全Ⅲ期〕

体裁 A4判(4面付)・上製・総3、254頁

揃定価 本体194,000円+税

編解説 加藤国安(二松学舎大学教授)

推薦 石川忠久・鈴木貞美・辻本雅史

## ◆第Ⅰ期 初学漢文教科書編

第1巻・第2巻・別冊1

揃定価 本体54,000円+税

ISBN9781418350174 8710

2013年11月刊行

別冊Ⅱ第Ⅰ期・第Ⅱ期 解説

(分売可 本体2,300円+税)

ISBN9781418350174 9117

## ◆第Ⅱ期 中等漢文教科書編

第3巻(第5巻)

揃定価 本体84,000円+税

ISBN9781418350176 1517

2014年6月刊行

## ◆第Ⅲ期 多様な漢文教科書編

第6巻・第7巻・別冊1

揃定価 本体56,000円+税

ISBN9781418350177 8915

2015年9月刊行

別冊Ⅱ第Ⅲ期解説・総索引

(分売可 本体3,000円+税)

ISBN9781418350177 9312

### ●関連図書のご案内●

六角恒廣 編・解題

## ◆中国語教本類集成

第Ⅰ期(第1集)第5集 全20巻

体 裁ⅡA4判・上製・総9、238頁

揃定価Ⅱ本体425,000円+税

明治初年以降、日本における中国語教育において使用された教科書・辞典・文法書等を編集復刻。

第Ⅱ期(第6集)第10集 全15巻

体 裁ⅡA4判・上製・総6、012頁

揃定価Ⅱ本体300,000円+税

戦争語学とまで言われた中国戦時期の会話書をはじめ、昭和期の新しい傾向を示す小説や語法書、講義録、学習誌等を収録。

補集 全5巻

体 裁ⅡB5判・上製・総1、522頁

揃定価Ⅱ本体90,000円+税

江戸時代唐話篇として、特に享保期に刊行された、主として岡島冠山によって編纂された教本を収録。

六角恒廣 編・解題

◆中国語辞典集成 全16巻

推薦Ⅱ波多野太郎

体 裁ⅡA4判・上製・総5、503頁

揃定価Ⅱ本体384,000円+税

明治から昭和戦前期までの中国語学習に使用された中国語、時文、会話・熟語、台湾語、発音、基礎単語の辞・字典を36点収録。

陽 其二・堀越修一郎ほか 編(明治10年)明治31年刊

◆穎才新誌 全20巻・別冊1

別冊Ⅱ解説(上笠一郎)・総目次・索引

推薦Ⅱ大久保利謙・上笠一郎・唐澤富太郎・佐藤秀夫・久木幸男

堀越克明・本田和子

体 裁ⅡB5判・上製・総9、732頁

揃定価Ⅱ本体460,000円+税

本誌は、自由民権運動のただやかに創刊された全国的規模の投稿雑誌の先駆である。明治初期・中期の青少年たちの文章・絵画・詩歌・書の晴舞台であった本誌は、「明治文学の幼稚園」と呼ばれるほど、のちに多くの作家・政治家・学者を輩出した。

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023

東京都文京区向丘1-2-12

電話03-3812-4433

ファクシミリ03-3812-4464

振替001600294084